

平成 16 年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多く、11 月の日照時間は北海道の太平洋側と東北地方を除く広い範囲で平年より多くなりました。北海道の日本海側と西日本などの日照時間は平年の 120%以上となった所が多く、中でも九州南部地方と南西諸島は 140%以上となりました。

全国的に平均気温が平年より高くなり、北日本と東日本では平年より 2℃以上、北海道の南部から東北地方にかけては平年より 3℃以上高くなった所がありました。

東日本と西日本の太平洋側では、中旬を中心に低気圧や前線の影響で降水量が平年より多く、東海地方と九州地方南部では平年の 200%以上となった所がありました。低気圧や前線の影響をほとんど受けなかった沖縄地方の月降水量は平年よりかなり少なく、平年の 29%でした。

【11 月の検証結果】

17 時発表予報の「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報・明後日予報とも例年^(注)より 5 ポイント高い 88%と 85%でした。全国的に適中率が例年より高い所が多く、沖縄地方の適中率は明日予報・明後日予報とも例年より 11 ポイント高くなりました。

最高気温と最低気温の予報誤差 (RMSE) は、全国平均でともに例年より 0.2℃小さい 1.5℃でした。最高気温では、北海道が例年より 0.2℃大きかったのを除けば、全国的に予報誤差が例年より小さくなりました。最低気温でも、全国的に予報誤差が例年より小さく、特に九州南部地方は例年より 0.6℃小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

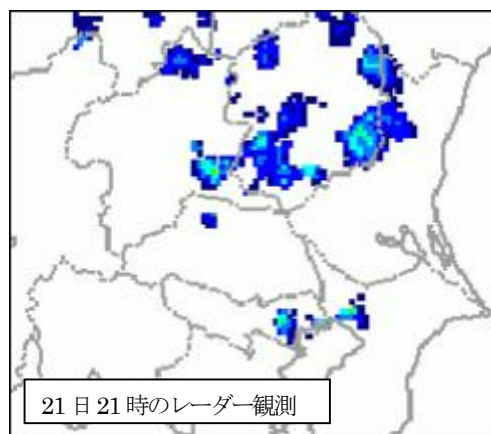
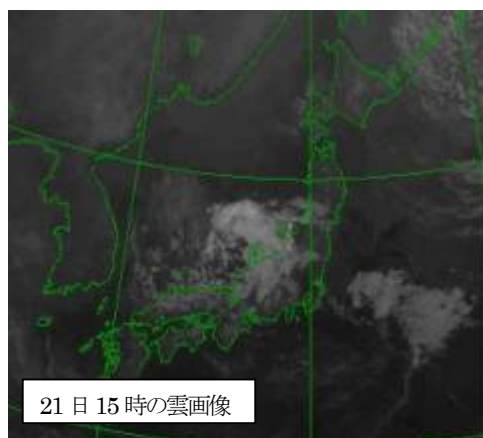
【11 月の天気予報から】——晩秋から初冬の雷（21 日の東京地方の予報から）——

晩秋から初冬にかけての時期は、大陸から日本付近に南下してくる寒気の影響で、日本海側の地方で雷雲が発生しやすくなります。しかし、関東地方南部などの太平洋側の地方では、対流圏下層の空気が比較的乾燥しているので、この寒気の通過に伴って天気が大きく崩れることはありません。

21 日に上空の寒気が本州上を通過すると予想していました。しかし、関東地方での下層大気の安定度や湿りの予想から、「この寒気に伴って雷雲が発達するのは関東地方の北部どまりで、関東地方の南部では一部でわか雨がある程度」と考え、21 日朝 5 時に発表した東京地方の予報は、「晴れ、昼過ぎから時々曇り、所によって一時雨」としました。

21 日の実況では、予想したように日本付近まで南下した上空の寒気の影響で、15 時頃に北陸地方で雷雲が発生し、夕方には関東地方の北部でも栃木県を中心に散在するようになりました。寒気の影響を予想しなかった関東地方の南部でも、20 時頃には東京 23 区から千葉県西北部にかけて雲頂高度の低い雷雲が発生し、局地的な雨が 3 時間ほど続き、東京（大手町）でも合計 5 mm 降りました。

つくば市（茨城県）での 21 時の高層観測では、下層で弱い東風が卓越した以外はほぼ予想通りの大気状態でしたが、次ページのレーダー観測のように、東京 23 区から東の狭い範囲に限定した雨雲が見られます。この事例のように小規模な現象を予測する技術については、残念ながら現在でも難しいものがあります。



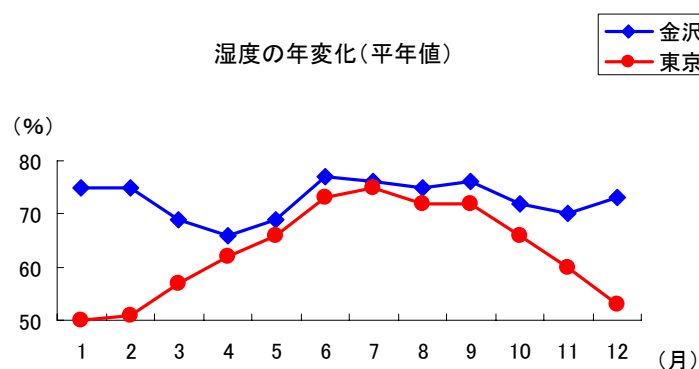
【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月の特徴は、「冬型の気圧配置」の日が多くなることです。「冬型の気圧配置」では、大陸から日本列島に流れ込む冷たい空気は、日本海を北上する対馬暖流から大量の水蒸気を補給され、積乱雲が発達します。地上付近の気温も低く、日本海側の地方には雪が降ります。一方、奥羽山脈・越後山脈・飛騨山脈など、本州を縦断する山脈を越えるまでに、空気に含まれていた水蒸気のほとんどは雪として既に落下しているので、太平洋側の平野部に到達した空気は非常に乾燥しています。

冬型の気圧配置が続く時は、太平洋側の地方では空気の乾燥に注意する必要がありますが、日本海側の地方では大雪やふぶきによる災害や交通障害の心配があります。

道路事情が良くなった近年は車に伴う雪の障害が多くなっています。たとえば、高速道路を走行中の路面凍結に気づかず急な運転操作をした場合の事故が考えられます。珍しい例としては、地吹雪で道路が塞がったために路肩で暖機運転をしながら仮眠している間に降り積もった大雪に車全体が埋まり、排気ガス中毒になった事故もあります。

雪国の道路をドライブする際には、地元の気象情報と道路情報などの入手に努めて下さい。



金沢と東京の月別湿度の平年値

日本海側（金沢）の湿度は年中ほぼ安定している。
冬季に湿度が極端に低下するのは太平洋側（東京）の特徴で、1 月は最も空気が乾燥する。